

経営健全化計画の平成 26 年度実施状況

京都府京都市
京都市高速鉄道事業特別会計

第1 計画と具体的な措置の状況

平成 26 年度については、全庁を挙げた増客の取組や駅ナカビジネスの積極的展開、お客様サービスの向上などによる収入増加策とコスト削減策により、経常損益は計画に比べ大きく改善し、赤字額は 9 億円まで縮小した。また、現金収支についても計画を大きく上回る 81 億円の黒字となった。

その結果、資金不足比率は経営健全化基準の 20% を下回る 14.8% となった。しかししながら、企業債等残高は 4,000 億円を上回り、依然厳しい経営状況である。

なお、経営健全化団体からの脱却は、一般会計からの経営健全化出資金の繰り入れなしで安定的に資金不足比率が 20% を下回る見通しが立つ状況に至る必要があるため、引き続き、経営健全化団体として、計画に掲げる健全化の取組を推進する。

1 収入増加策

地域や事業者などオール京都で人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向け、公共交通の利用促進に取り組んでおり、具体的には、「地下鉄 5 万人増客推進本部」の下、「京の七夕」「花灯路」「二条城アートアクリウム城」及び「京都マラソン」などの観光・集客イベントの開催、岡崎地域や京都駅西部エリアの活性化など、地下鉄を核とした活力あるまちづくりを推進した。

また、沿線大学と相互に連携・協力し、公共交通の利用促進を図る協定の締結、ホテルや商業施設とタイアップしたイベント、駅周辺の史跡等を巡るウォーキングツアーなど、増客に向けて様々な事業を実施し、さらに、烏丸線の平日午前 10 時台の増便、大学の入学時期に合わせた通学定期券の出張販売など、一層の利用促進に努めた。

駅ナカビジネスについては、「コトチカ山科」の開業や、丸太町駅への店舗設置を行ったほか、「コトチカ御池」の拡充及び今出川駅の店舗設置に向けた実施設計など、更なる利便性の向上と駅の賑わいづくりに向け積極的な展開を図った。

そのほか、烏丸線烏丸御池駅への可動式ホーム柵の設置、駅ホーム階のエレベーター等案内表示の増設や、通信環境の充実に取り組むとともに、「全国一お客様サービス実践プロジェクトチーム」を設置し、お客様に心から満足いただける、より質の高いサービスの提供に努めた。

こうした取組の結果、1 日当たりの旅客数は、前年度から 1 万 5 百人増と 2 年連続で大幅に増加し、計画を上回る 35 万 9 千人となった。また、運輸収益と駅ナカビジネス収入等を合わせた営業収益は、計画を 7 億円上回る 259 億円となった。

2 コスト削減策

安全に留意した地下鉄設備の更新期間の延長や節電対策の実施など、徹底したコスト削減に努めた。

3 一般会計からの支援

計画に基づき、経営健全化対策出資金を繰り出すとともに、地下鉄駅賑わい創出事業への出資を行った。

第2 資金不足額解消の状況

(単位：億円)

区分		計画初年度 の前年度	計画初年度 (平成21年度)	第二年度 (平成22年度)	第三年度 (平成23年度)	第四年度 (平成24年度)	第五年度 (平成25年度)
資金不足解消額	当初計画 A		17	1	26	39	46
	解消実績額 B 又は 現在計画 C		46	86	40	60	16
	B-A 又は C-A		29	85	14	21	△30
資金不足額 (解消可能資金不足額控除後)	計画		293	291	265	227	181
	実績額	310	264	178	138	78	62
資金不足額	計画		311	311	311	311	311
	実績額	310	310	309	309	309	309
区分		第六年度 (平成26年度)	第七年度 (平成27年度)	第八年度 (平成28年度)	第九年度 (平成29年度)	第十年度 (平成30年度)	
資金不足解消額	当初計画 A	13	61	52	△12	67	
	解消実績額 B 又は 現在計画 C	24	—	—	—	—	
	B-A 又は C-A	11	—	—	—	—	
資金不足額 (解消可能資金不足額控除後)	計画	168	107	55	67	0	
	実績額	38	—	—	—	—	
資金不足額	計画	311	309	308	305	303	
	実績額	309	—	—	—	—	

注1 「当初計画 A」は、健全化計画の金額である。

注2 億円未満の端数処理により、合計等が一致しない箇所がある。

注3 資金不足解消額の平成25年度「実績額 B」が「当初計画 A」を下回ったのは、計画で見込んでいた5%相当の運賃改定を見送ったためである。

第3 資金不足比率の状況

(単位：%)

区分	計画初年度 の前年度		計画初年度 (平成21年度)		第二年度 (平成22年度)		第三年度 (平成23年度)		第四年度 (平成24年度)							
	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値							
資金不足比率	133.5	126.8	114.5	125.7	76.2	114.0	57.8	96.9	31.9							
区分	第五年度 (平成25年度)		第六年度 (平成26年度)		第七年度 (平成27年度)		第八年度 (平成28年度)		第九年度 (平成29年度)							
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値		計画値		計画値							
資金不足比率	73.6	24.4	66.6	14.8	41.5		20.7		24.7							
区分	第十年度 (平成30年度)		備考													
	計画値															
資金不足比率	—		平成26年度においては、旅客数を大幅に伸ばしたことや、コスト削減に努めたことなどにより、計画で見込んでいた以上の現金収支の黒字額を確保することができた。													